

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟機関紙

ひびきあい

- 発行責任者 芹澤 昭仁
- 編集者 小林 忠雄
- テル 182-0012
- 調布市深大寺東町3-10-4
- TEL/FAX 042-487-6403
- <http://members3.jcom.home.ne.jp/jse/>
- jse@jcom.home.ne.jp



第14回 定期総会を終えて

NPO法人 全日本シニアアンサンブル連盟
理事長 芹澤 昭仁

町が村が津波で消えた。一夜明けた現場から伝わる情報に胸がつぶれる。以前、スマトラで見た同じ光景が眼前に広がる。ビルや家に取り残された人がいる。救いの手を。自衛隊や各国の救援隊も動き出した。あらゆることに優先させて支援を!。地下鉄は緊急停止し、小船のように揺れた。路上を埋めた人々と街を歩く。止めどない被害の広がりに意識が追いつかない。

これは平成23年(2011年)3月11日、“悪魔の日”の翌日(土)朝日新聞の夕刊“素粒子”が伝える東日本大震災の第一報でした。正に総理の言う“国難”であります。前代未聞の大惨事発生によって、連盟の第14回の総会は、開催場所として予定していた高尾の森“わくわくヴィレッジ”から、使用不可能の通告を受けて、急遽、調布市文化会館“たづくり”にて行うことになりました。

この度の総会にご参加頂いた皆様には大変ご迷惑をかけました。改めて心からお詫び申しあげます。

さて連盟の第14回総会当日5月3日(火)は、同日午前10時から12時まで臨時理事会が同所で行われ、昼食後12時半から15時過ぎまでに、予定通り皆さんのご協力により、無事終了いたしました。

総会並びに12階での合同曲のレッスンへの参加者を含めて、総勢45名が集まって頂き、笠森先生のご指導により、殆ど予定通り午後5時過ぎに全日程を無事終了することが出来ました。

最後は6時から7時半過ぎまで、20数名の方が夜の展望レストランで、交流を深めて散会しました。

ひびきあい48号でお伝えしましたように、22年

度は多くの楽団で記念演奏会や定期演奏会等が活発に行われ、そのフンイキの中で千葉県では新規に4楽団が誕生し、誠に力強く感じました。

今年度は千葉市での第11回全国大会を控えて、関連各団には多忙な年となります。連盟本部としても、一丸となって、なんとしても大会を成功させねばならないと思っています。大会参加15団体、参加者300名強、過去最大の大会になります。ホストは千葉全県7団体が総力をあげて頑張って頂きます。

既に別報にてお願いしましたように、東日本大震災を受けた福島、宮城、岩手三県の被災者に対して、基本的には、各団で個々に実行された義捐金について、本部にご報告して頂きたいと思います。

次に経費節減のため機関紙“ひびきあい”は今後パソコンにより配信しますので、各団又は各人で見てください。パソコンで観られない方は、本部にご連絡下されば、今まで同様実費で配達します。

次期大会(平成25年度)は宇都宮で連盟の第12回大会を開催の予定です。



事務局長就任に当たり

事務局長 山崎 日出男

この度、第14回通常総会に於いて、理事長（芹澤 昭仁）の任命により、連盟の事務局長を拝命し就任いたしました。昨年までは、事務局員として活動を致しましたが、重責に身の引き締まるのを覚えます。微力ながら全力を尽くす覚悟でいます。団員、楽団、（正会員）、役員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

尚、私個人は、どの楽団にも属しておりません。諺に「森を離れて森を見る」と有りますように、客観的立場から連盟を支えて行きたいと、自負しています。連盟には定款に基き「個人正会員」として登録しております。

さて、事務局長の就任にあたり、少し抱負を述べさせて戴きます。

省りみると、私とシニア・アンサンブルとの関り合いは10数年前に遡ります。1998年～2000年頃にかけて、私の在職していた＜ヤマハ株式会社＞が到来した高齢社会への対応策として「音楽を通しての生涯学習社会の確立を」との命題の下、様々な施策が始まられました。その一環として、各地で出来上がりつつあったシニアアンサンブルの支援を＜地域音楽事業の育成策＞として人、物、金、を支援させて頂いたと記憶しています。その後、2000年に定年退職なり、直接の関りは無くなりました。が、在職中に知遇を戴いた芹澤様、ヤマハ先輩の岡村様などを通して、ステマネ、司会ヒシニアアンサンブルのお手伝いさせて戴きました。

これ等の事を通してシニア世代の皆様の音楽活動、特に器楽の演奏に強い憧れ興味・関心を抱くようになりました。高齢者が豊な人生をどんな方法で過ごすかは、沢山ありますが、音楽を通しての方法は最高の事だと思い、大きな意義を認めています。愛

情も団員の皆様と同じくらい持っている積りです。

次に連盟事務局長としては、連盟の運営が正しく為されることに全力を注ぎます。連盟はNPO法人の資格を取得し、当局に登記されています。

この事は、連盟の行う様々な事業活動は社会的意義と責任が問われています。法律（NPO、民法他）を遵守してきちんとした活動がもとめられます。

具体的には連盟の＜定款＞に基き活動が為される事です。

是非、団員、団の責任者、連盟役員の方々が、定款を正しく理解される事を望みます。但し、＜定款＞は絶対ではありません。時代の推移や連盟を取り巻く環境の変化で、不都合な部分が出てくるかも知れません。其の時に応じて話し合いながら対応していきたいとおもいます。

また連盟は沢山の課題を抱えています。

- ①団員の高齢化と傘下楽団の減少
- ②連盟財政の脆弱体質、
- ③連盟と傘下楽団との在り方
- ④全国大会の開催方法

など直ぐに解決できない難問ばかりですが、情報の収集に務め、知恵を出しあって解決に向かい努力致します。

原点に戻れの言葉があります。迷った時は原点に戻りましょう。

団員の方は、入団された時の気持ちへ、団のまとめ役の方は、設立時の情熱を。役員は、連盟設立の意義を。そして全ての人に共通するのは音楽する喜びを。私達は音楽する事を通して繋がっている事を忘すべく、豊な人生を送る事だと思います。

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

第14回定期総会議事録

1 日 時 平成23年5月3日(火) 12:30 ~ 15:30

2 場 所 東京都調布市 調布市民文化会館“たづくり”303・304会議室

事務局小林の第14回定期総会開催宣言に続き、事務局山崎の司会進行により本日の定足数の確認あり。

正会員数 19名 出席者数 15名(うち委任状3名)

3 議長及び議事録署名人2名選出

事務局山崎の司会より議長に清水玲子氏を、議事録署名人に佐野敬次氏及び林将人氏を推薦する旨の提案があり、全員異議なくこれを承認。直ちに議事に入った。

4 審議事項

- | | |
|--------|------------------------|
| 第1号議案 | 平成22年度事業報告及び活動報告承認の件 |
| 第2号議案 | 平成22年度会計収支決算報告承認の件 |
| 第3号議案 | 平成22年度会計監査報告承認の件 |
| 第4号議案 | 平成23年度事業計画案及び活動計画案承認の件 |
| 第5号議案 | 平成23年度会計収支予算案承認の件 |
| 第6号議案 | 平成25年度以降の全国大会開催に関する件 |
| 第7号議案 | 会員・役員の資格の明確化と定款の変更の件 |
| 第8号議案 | 理事の補選と事務局員の人選の件 |
| 第9号議案 | 連盟機関紙「ひびきあい」発行方法変更の件 |
| 第10号議案 | 東日本大震災の被災者への義捐金 |
| 報告事項 | 第11回全国大会準備進捗状況について |

5 議事経過の概要と決議の結果

- | | |
|-------|------------------------------|
| 第1号議案 | 事務局庶務担当より報告があり、全員異議なくこれを承認。 |
| 第2号議案 | 事務局会計担当より報告があり、全員異議なくこれを承認。 |
| 第3号議案 | 清水玲子監事より監査報告があり、全員異議なくこれを承認。 |
| 第4号議案 | 事務局庶務担当より |

I 事業実施の方針

平成23年度は、10月に千葉市に於いて第11回全国大会の開催する。特に今年は大震災の復興支援コンサートと位置づけて開催する。

尚、近隣諸外国との国際親善活動を引き続き模索する。

II 活動方針

加盟楽団の自主活動の更なる推進と、ジョイントコンサートなど隣接する楽団相互の交流を深める。

III 活動計画

- イ 第13回 定期総会の開催 5月(本日開催)
- ロ 理事会の開催 7月、11月、3月の3回
- ハ 機関紙の発行 年3回
- 二 各種資料の提供 ホームコンサート シリーズ 等

IV 連盟財政基盤の強化

賛助会員増員の継続
支援団体獲得へのアプローチ
につき事務局庶務から説明あり。

これに関し、松永氏（市原）から国際親善活動も模索するの模索とはどのようなことか？との質問あり。既に独自に海外演奏活動を経験された市川氏（弦の集い）からは、海外公演は大変意義のある事ではあるが、反面楽器の搬送を伴う厳しい旅行であった。との感想。

岡村氏（我孫子）今年ハワイへ親善演奏旅行を計画していたが、大震災等のため見合せとしたこと。等の発言あり。

連盟萩原理事、理事長から連盟として重要課題の一つであるので、常時アンテナを張って情報収集と迅速・的確な対応をしたい。との回答あり。

全員異議なくこれを承認。

■第5号議案 事務局会計担当より説明あり、高橋理事（足立）から「22年度に連盟から千葉大会支援金として15万円支払われているが、今年度の大会収支計画に15万円計上されている。再度支援金を支払うのか？」との質問あり。事務局から15万円の拠出は1回限り、年度が跨るので会計処理上このようになること。

岡村理事（我孫子）より、会場確保のための一種手付金としての支出総額60万円の一部に充当していること。23年10月に全国大会が開催されると会場費に振り替えるとの説明あり、全員異議なくこれを承認。

■第6号議案 芹澤理事長より次回大会のホスト楽団として宇都宮を指名、鈴木副理事長（宇都宮）が平成25年度全国大会は宇都宮シルバーアンサンブルがホスト引き受けを表明。

尚、それ以降の全国大会は開催地を関東地方とし、連盟本部主催で各団から人材の拠出を募り、全楽団一体とした大会に切り替える。またそうすることにより、隔年開催を毎年開催に切り替えたい旨の提案があり全員異議なくこれを承認。

■第7号議案 本議案は理事会にて更なる討議が必要との理事会の決議により総会への上程取り止め

■第8号議案 楽団の脱退、役員の辞任等により理事5名が空席となっている。このため理事補選の結果は下記の通り、

理事（新任） 林 将人（杉並）	堤 通能（シーガルヨコハマ）
穴倉和夫（船橋）	松永恒文（市原）

被選任者は就任を承諾した。

（退任） 鈴木孝侑（天童）	伊藤 敏（ひろしま）	石津 勝（船橋）
鈴木健之（横浜）	杉山一男（井の頭・事務局長）	

新事務局人選に就いては、定款の定めるところにより、理事長が事務局長に山崎日出男（個人会員）を任命。全員異議なくこれを承認。

■第9号議案 連盟機関紙「ひびきあい」発行方法変更の件

理事長より連盟の財政事情も逼迫しているので、経費節減と情報の早期共有化を図るために、従来の紙面に印刷して配布する方法から、インターネット上の連盟のホームページに配信し、皆様にはお手元のパソコンでご覧いただく。ご覧になれない方については各団の広報担当者等にプリントアウトいただく。また、自団では対応不能の場合は事務局に申し出て、事務局から印刷したものをお届けする。この場合、10ページ・100円+送料見当の実費を申し受けます。との提案理由の説明があり。

これに対し、岡村副理事長（我孫子）高橋理事（足立）から従来通り印刷物として発行して欲しい。

萩原理事からは、時代の趨勢でもあり、HP上への配信の方が合理的。

と賛否両論が出たが、採決の結果12（含委任状3）対6で可決。

■第10号議案

既に、楽団として、或いは個人的にも義捐金を拠出している人もいるので、改めて連盟として集めることなし。との岡村氏からの発言に代表されることから、対応しないことで一致。

■報告事項

第11回全国大会（千葉）準備進捗状況 岡村氏（我孫子）から

大会予算、アンケートの廃止（コンクール的な方向性の排除）、講評者への講評依頼、演奏の持ち時間、楽団のグルーピング ゲスト出演者の検討、等について現在までの準備状況、今後の計画等につき説明がありました。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成23年5月3日

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

第14回定期総会に於いて

議長 清水 玲子
議事録署名人 佐野 敬次
議事録署名人 林 將人



総会の一コマ



合同演奏曲の練習風景

♪ 音楽と私 ♪

チェロとの遅い出会い（下）

調布シニアアンサンブル（チェロ）
坂本 康一



1962年に新しくできた信託銀行に移った。LPレコードを毎月1枚づつ買っていたくらいで、それも福岡支店に転勤になってからは途切れ、仕事以外は酒と麻雀とゴルフが占めるようになった。

東京に戻って長女が中学の頃ギターを買ってきて、弾くかと思えばほったらかしにしているので面白半分にそれなら俺が弾くと言って初心者の教本や古賀政雄の楽譜などを買ってきて手探りで弾き始めた。演歌の弾き語りではつまらないでクラシックギター入門を四苦八苦しながら取り組んだ。しかし仕事が忙しくて教室に習いに行くどころではなかった。アヤポンドとかアルアイレなどよく分からないますすべて自己流だったので上手くはならなかった。それでもソルのメヌエットとかタレガのラグリマ（涙）、最後は「禁じられた遊び」をつかえながら中間部も含めて弾くところまでは行った。しかし人様に聞かせるような演奏はできず、トレモロが出来なくてアルハンブラには歯が立たずそこで止めてしまった。

ギター弾き語りの楽譜のなかに「リリー・マルーン」というのがあって気に入った。加藤登紀子が歌っていたのがカラオケにも入ってよく歌った。ちょうどそのころ鈴木明の「リリー・マルーンを

聴いたことがありますか」という本に出会った。

それは、第二次大戦のヨーロッパ前線でドイツの放送局から流れたこの歌にドイツ軍だけでなく連合軍のイギリス兵士達までが聞きほれたというドイツの人々にとっては極めて思い出深い曲だという。その声の主を追いかけて大勢の人々に会い、最初マーレーネ・ディートリッヒの歌を聴かせたところ、みんな一様に首をかしげて「違う、この声じゃない」といわれる。そしていろいろと苦労したあげく最後にララ・アンデルセンまで行きついで「ああ！この歌だ。間違いない、懐かしい」といわれる。その内容に感じてララ・アンデルセンのLPレコードを搜し求めてついに見つけて買った。それはそれまで聴いたディートリッヒの歌とは異なった、まさしく「リリー・マルーン」の原典だった。しかしドイツ語はカラオケでは歌えなかった。

Vor der Kaserne（兵舎のまえに）

Vor dem grossen Tor（大きな門のまえに）

Stand eine Laterne（一本の街灯が立っていた）

Und steht sie noch davor

（いまなお立っているならば）

So wollen wir das uns wiedersehen

（そこでまた会おう）

Bei der Laterne wollen wir stehen

（あの街灯のそばに立とう）

Wie einst Lili Marleen

（かつてのリリー・マルーンのように）

Wie einst Lili Marleen

（かつてのリリー・マルーンのように）

札幌に単身赴任したのが1981年暮れ、2年半の間仕事のほかは夏はゴルフ、冬は生まれて初めてのスキー、そして夏も冬も夜は麻雀と酒とカラオケだった。

本社に戻ってから再びクラシック音楽鑑賞をするようになった。モーツアルトが好きになって多くの交響曲やピアノ協奏曲だけでなく、弦楽四重奏曲、五重奏曲からオペラ、宗教曲、歌曲など大部分をカヴァーするほどのCDが集まった。そのころか

♪ 音楽と私 ♪

らすでにチェロの音色が好きだったのでモーツアルトにチェロ協奏曲がないのが残念だった。

小林秀雄がエッセイ「モーツアルト」の中でト短調の弦楽五重奏曲を「モーツアルトのかなしさは疾走する」と書いている。これはアンリ・ゲオンが「モーツアルトとの散歩」で「美とすすり泣きが走り駆けめぐる」と言っているのに共感したのだと譜例まで表示している。アンリ・ゲオンの本は大部だが面白く、モーツアルトの鑑賞にも役立った。

その後入れ込んだのがマーラーとワーグナーだった。マーラーの「大地の歌」は何故か若い時にブルーノ・ワルターがニューヨークフィルを指揮した1964年のLPレコードを買って楽しんでいた。とくに最後の樂章「別れ」でメゾソプラノが「ewig ewig(永遠に)」と消え入るように歌う部分はいまでも飽きない。

トマスマンの「ヴェニスに死す」をヴィンコティが映画化した「ベニスに死す」はやや期待外れだったがバックミュージックで奏でられる交響曲5番の緩徐樂章のメロディは良かった。後年ヴェネチアに1週間滞在の旅行に行った時口ヶ地のリド島へ渡ってみた。アドリア海の水は美しかったがカーニヴァルに焦点を合わせた旅行だったため、オフシーズンで海岸は閑散としていてつまらなかつた。

ワーグナーに魅せられたのもその頃だった。タンホイザーはバイロイト音楽祭が初めて日本に引っ越し公演で来たとき高い入場料を奮発して観に行った。素晴らしいのを覚えている。第3幕でタンホイザーの友人のヴォルフラムがバリトンで歌う「夕星の歌」の樂譜がないかと探したが、やっと最近になって見つけた。

「ニュールンベルクのマイスター・ジンガー」はバイエルン歌劇場が来たとき見に行って感動した。「ニーベルングの指輪」4部作はLDとビデオで何種類か持っているが、「ワルキューレ」の最後のところと「神々のたそがれ」の最後の部分が気に入っている。リタイヤの直前にワインに1週間滞在の旅行をしたが、国立歌劇場での「ワルキューレ」を苦労して手に入れた切符で鑑賞できたことはいい思

い出となった。しかし何といっても「トリスタンとイゾルデ」の最後の「イゾルデ愛の死」は何度聴いてもいい。

いつ頃だったのか記憶が薄いがNHKで彗星のように登場し、彗星のように消えたジャクリーヌ・デュ・プレのドキュメンタリー番組が放送された。1945年生まれの彼女は3歳でチェロ音を聴いて「マミー、あの音を出してみたい」と言って翌年 $\frac{3}{4}$ サイズのチェロを買い与えられた。チェロのために生まれてきたようなジャッキーは16歳でデビューし、絶賛を浴びた。特別な才能をもった彼女の演奏活動は華やかなものだったが10年後に多発性硬化症という難病に罹り、1987年に世を去った。

彼女のチェロ音は素晴らしい、それからデュ・プレの虜になって次から次へとCDを買って聴いた。ハイドン、ボッケリーニ、ドヴォルザーク、エルガーなどの協奏曲、ベートーベンその他のソナタなど。わずか10年ほどの演奏期間なのでCDに収められた曲は少ない。しかしその珠玉のような演奏の数々はしばらく僕を魅了した。チェロを習いたい思いで駆られた伏線の一つだったかもしれない。

65歳でリタイアして写真や水墨画を勉強しているいろいろな人との出会いがあった。しかし以前からチェロの音が好きでチェロに触りたくてまた自分で音を出してみたかった。しかし70歳を過ぎてから新しくチェロを覚えるなど問題にならないと諦めていた。ところがたまたま新聞の記事に、まったく楽器の経験がなく楽譜も読めなかった男性が70歳を超えてからチェロを習い始めて、3年を経てやっと1曲「浜辺の歌」が弾けるようになり、過去にやっていたゴルフ、麻雀その他のいろいろな遊び事に比べていま一番チェロが面白いという経験談が出ていてこれだ！と思った。

それから楽器店に行ってみたり、音楽教室に足を運んだりして習うことになったのだが家内に言うと「ええーっ！ほんとに弾けるようになるの？」信じられないような声が返ってきたが、半面面白がっている風にもみえた。学校や職場の友人たちも楽器にはほとんど縁がなく、せいぜいギターを弾くや

♪ 音楽と私 ♪

つがたまにいるくらいで

「えーっ、坂本がチェロを弾くなんて信じられない」

それから個人レッスンに行きはじめたものなかなか上達しない。しかし何回も練習するうち全く歯が立たず出来なかったことが出来るようになる喜びがあり、あの新聞の主の通り苦労はするが面白くてたまらない趣味になった。まさに70にしてチェロにはまったという感じだった。

宮沢賢治の「セロ弾きのコーシュ」は夜中に猫、郭公、狸、野ねずみなどいろいろの動物を相手に練習をして上手になる話だが、宮沢賢治自身がいいチェロを持っていて熱心に習っていたという。最も友人のチェリストとその友人の持っていた穴のあいたチェロとを交換してやってしまうのだが。

個人レッスンで同じ先生に習っていた森さんの口利きで、2007年7月に調布シニアアンサンブルに入れてもらった。

指導、指揮をする福田先生はなんと85歳で矍鑠としている。昭和25年にN響に入って30年間ヴァイオリンを弾いていたそうで、むかしイタリアオペラが来日したときも、また海外演奏で当時少女の中村紘子が振袖姿でデビューし、チャイコフスキーやピアノ協奏曲を弾いて絶賛を浴びた時も一緒に演奏していたそうだ。パリオペラ座でのモノクロ映像を観たことがある。先生はほかでもアマチュアオーケストラの指揮をしていて、当アンサンブルに合わせた編曲もお手のもので次々と新しい曲を持ってくる。アンサンブルを引っ張っている芹澤団長も83歳でピンピンしている活動家だ。

楽器演奏の合奏は初めてなので最初のうちはリズム感がないのと初見で弾けないので苦労したが、その後はどうにかみんなに付いていきながら楽しんでいる。

2008年10月に横須賀の芸術劇場で全国シニアアンサンブルの全国大会があつていま入っている調布アンサンブルも他のアンサンブルと共に50名の大勢で参加した。チェロはなんと8名の陣容だった。全部で14団体が参加するビッグイベントである。僕は初めての参加だったがいい体験だっ

た。なかでもモーツアルトの交響曲25番は難しくて猛練習をしたおかげで出来がよく好評だった。

夜の懇親会には100名くらいが出席して調布は10名ほどの参加だったが、余興でラ・クンパシータをやった。チェロは僕一人、開放弦で弾く箇所が多いので思い切り弾けた。弾き終わった後、宇都宮アンサンブルの人から「よーっチェロの名手！」と声をかけられて気を良くした。

翌日指揮の福田先生と団長の芹澤さんと城ヶ島に行った時また宇都宮の人達に出会い、そこでも「やー、チェロの名手！」といわれますます気を良くした。

後日その話題の後、当楽団のコントラバスの名手から

「坂本さんは名手じゃなくて迷うほうの迷手じゃないの」

と冷やかされた。そのとき突然むかし読んだ漱石の「三四郎」のなかで美弥子が「迷子のことを教えてあげましょうか。ストレイシープっていうのよ」という場面を思い出した。本は「三四郎はただ口の内でストレイシープ(迷羊)、ストレイシープ(迷羊)と繰り返した。」で終わっている。そして僕の場合はさだめし宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」から類推してストレイゴーシュだなと思った。ストレイゴーシュ、ストレイゴーシュ…。

船橋シニアアンサンブル 大震災の影響で4月9日の 第1回定期演奏会延期!!

今回の大震災で会場としていた船橋市民文化ホールが使用禁止となり、半年前から準備に入り本番を待つばかりのところ中止を余儀なくされました。環境が整い次第開催する予定とのことです。

♪ 音楽と私 ♪

市原シニアアンサンブル

オーボエ 大隈 満昭

音楽と私の出会いや、obに係る諸々の拘りなどについて、一文というお話があったとき、正直“困ったなあ。どうしよう。”と頭を抱えたことを白状しなければなりません。何分にも、私達昭和一桁生まれの世代までは、長く不幸な戦争と、それに続く敗戦後の極端な物不足、とくに、食糧の不足は「音楽どころではない」といった空気が支配的で、ある意味音楽環境皆無の中で育った、特別な世代であるとも言えますから、語るべきものも少なく、勢い、平板な文章に終始することになるのを、初めにお許し願いたいと思います。

私の場合、社会人となり会社の寮で生活するようになって、音楽好きな友人と巡りあい次第にその虜となってゆく平凡な経過を辿るのですが、喰べるものなし、遊ぶ所なし、おまけにお金なしの、味気ない寮生活ですから行きつく所は誰も同じ。

居心地のよい、自由で、気心の知れた、同好の友人の溜りとなりましょうか。今思ってもよくまあ毎日飽きもせず、それぞれの格好で、ロール巻したセンベイ蒲団をソファ一代りに、終日レコードをかけ、議論をし、時には駄菓子を口にしながら過すというパターンを続けたものでした。

丁度東京オリンピックの頃、TVに限らず音響機器などの発達もすばらしく、何インチのスピーカーの付いたステレオがどうのとか、ウー・ハーは、多面スピーカーの性能はとか音楽よりオーディオに熱中した友人の、自慢話を判らないまま、毒氣を抜かれた姿で聞かされたものです。

機器の進歩に合わせレコードも、SP、EP、LPと格段に長時間で音質もよくスクラッチ音も小さいものとなり、臨場感に溢れるすばらしい演奏が聞け

るようになりました。

特にその内の一枚、アンドレ・コストラネツ指揮ボストン交響楽団の世界名曲集に収録されていた、チャイコフスキーの「白鳥の湖」あまりにも有名な「情景」のobソロは、私に表現しようもない衝撃を与えました。

よく、背筋に電気が走った、などと耳にすることがあります、全くその通りで全身がわなわなと震えたのを、鮮烈に覚えています。もちろん、それから毎日、繰り返しLPレコードの表面が、横から見ると白くなるまで聴きました。残念なことに、その大切な一枚も、友人の無責任な又貸しで、行方不明となりましたがあれから五十年。それは私の青春時代を垣間見る、一瞬の出来事だったのかなあと、思います。

LPがCDに変わっても、同じソロの部分を十数種類聞き比べても、あの感動はありませんでした。LPレコードによって、楽器への興味が湧いていた頃でしたから、その後迷わずobをやると決心したのも成行だったと思います。

偶然にも、友人から会社に一管編成のオーケストラがある、と知られ早速事務局を訪ねたのも、そういう背景があつての故でした。

局では若者歓迎、obはあると言われ、立派なケースに納められたobを見て、あまりの幸運に内心大丈夫かなという、眩きとは裏腹に、借用証のサインもそこそこに、自室に持つて帰ったものです。ところが楽器を組立てる段になって、教則本なし、メカニック知識なし、リードなるものの用途不明の体ならく。

友人と二人で、何かと組立てるまでに相当の時間を費す羽目となりました。後日、地方では一番大きいと言われる楽器屋に、必要な教則本や小道具類を買いに行った時のこと、店員さんに“obとは何ですか”と逆に聞かれ、大笑いしたのですが、店内



♪ 音楽と私 ♪

の飾り棚の中には洋銀製の曲がったフルート？一本だったのを見て変に納得した、そんな時代でした。

さて、組立の段階まで未だobですが、音が全く出ない。散々調べて判ったこと。上管がバックリ割れていること。(致命的) タンポのフィッシュキンが破れていること。リードがへたって使いものにならないこと。仰天。そして失望。数ヶ月後考え直しました。壊れた楽器があれば、少々手荒な取扱も許される。練習の前に補修と決め、ワレは接着剤の性能が劇的に良くなっている。会社の特権を利用して、数社から試用品を取寄せテスト(住友スリーミにはお世話になった) タンポの破れにはフィッシュキン(避妊用)が最高とあれば薬局に直行。品物を出してもらって陽にかざし選別する。薬局の女性が変な顔をした本当の意味に後で気付き、赤面したことありました。だって若い男の威張ってすることじゃないですからね。リードについては、皆目わからぬ。遂に万歳しました。その間三年。よくぞ頑張ったと自分自ら思います。

しかし、それによって、殊にobにとって重要なことを二つ学びました。

一つは楽器の分解・組立てが素早く出来ること。今一つは、リードがケーンを割る最初の行程から全部納得いくまで自分流に作れることです。大事なリードがプロ並の意識で行けば何十本で一本のオーダーですから、これは大きい。デリケートで難しいと言われる、所以もそこにあります。

obに係るとなれば、Y先生を抜きには語れません。私のobに関する総ては、先生の部分的なコピーにすぎないと言ってもよい位ですから。

若い頃、コストラネツの「白鳥の湖」で衝撃を受けたこと。ワレたobで苦労したこと。Obに関する情報がなくて困ったこと。など前述しましたが、先生とはそれらを補完する形で時には近く、時には音信不通となりながらも、五十年の交りが続いたことを、むしろ、不思議な気持ちで考える毎日ですが、落ち着くところはやはり先生なしでは、今日までobを続けることは出来なかっただろうという、思いが強いことを否めません。

Obをどうしても吹いてみたい、という願望も、奇跡的に、三十年振りに福岡一葉山間で連絡がとれた結果、定年後すぐに先生とお逢いし話しがまとまり、フランスのロレー社からObを取寄せられましたことで、満たされました。

いくつかのアマオケでの演奏、イベントへの出演、などいつの間にか数え切れない程になりましたが、歳八十にもなって、楽しく張切って現役でいられる事を感謝しています。

ただ、最初にお願いしましたように、私達の世代では、音質・音程・リズム感など音楽の基幹となる素養に触れる機会が少く、今以て私自身モタモタしている状態ですから、これからも意識してそれらを克服するよう、常に心掛けたいと考えています。



「弦の集い」

代表 大正琴 市川 玲子

音楽！ 音を楽しむ、何と素晴らしい言葉でしょうか。

一番最初は母の子守唄、それから童謡レコード、今でも河村順子、椎名玲子、小坂勝也等の名前が懐かしく思い出されます。小学生になってピアノを習い始めてから間もなく先生は召集され、私達は疎開する事になり音楽とは縁が切れてしまいました。ラジオから流れて来る歌は軍歌ばかり、やがて終戦、東京が落ちつくのを待って昭和二十五年に東京へ戻り高校へ、その頃のラジオで聞いた「水色のワルツ」この曲は何故か今でも一番好きです。

♪ 音楽と私 ♪

高卒で楽器店に就職しましたが、入社試験にクラシックと流行歌（その頃は演歌とはいわなかつた）それぞれ好きな曲を「曲名と作曲名を述べよ」との問題が出ましたが「水色のワルツー高木東六」「ツィゴイネルワイゼンーサラサーク」と迷わず書いたのを今でも覚えております。

入社してからジャズと出会いびっくりしました。この世にこんな音楽があったんだー今迄はタンゴ、ルンバ位しか聞いた事なかったのにと思いそれから音楽会めぐりが始まりました。あの頃徹夜で並んでチケットを買ったのがついこのあいだのことのように思われます。

それとも結婚で中断なかなか思うようにいかないのが人生とあきらめの日々。

しゅうと、しゅうとめを看取り子供も手を離れ、音楽を聴くだけでなく、自分も何か楽器をと思った時は四十を大分すぎていました。先づ勤めていた頃仲間とハーモニカを吹いていたので吹いてみたら目が廻って酸欠状態、吹く楽器をあきらめ子供が小さい頃音楽教室について行き、一緒にさわった事のあるエレクトーン、これも落ちこぼれ、若い頃憧れたスチールギター、これも思うような音が出ず弦が錆びついたまま放りっぱなし、これじゃ人間失格とたどりついたのが大正琴でした。年寄のオモチャと言われ、私もその様に思っていたのですが良い音を出そうと思うと大変な事がわかってきました。ズルズル引っぱっているような音、音階ボタンの押え方、離し方が悪いと中途半端な音や余分な音が出る等良い音をと思っているうちいつの間にか二十七年たちやめようという気持ちがなくなったのには大きな理由があります。それは二十三年前から縁があって視覚障害者に大正琴の手ほどきをする様になったからです。だんだん広がって二十五名 こんな私を先生と呼んでついて来てくれた人達を見捨てる事は出来ません。「目が見えなくなつてから1日二十四時間どう過そうかと思っていたのに大正琴を始めてからあと二時間欲しい」と言われ、大正琴の関東大会に晴眼者と一緒に舞台で演奏し「この思い出だけを持って遠くへ旅立ちます」と言ってくれた人達。現在障害者は八名です

がその人達が出て来られる間は、その人達の為にも遠くへ旅立つて見守ってくれている人達の為にも私はやめることは出来ません。というよりも今は現在をとても楽しくすごさせて貰っている私がいます。

音楽は嬉しい時も悲しい時も心の中にスープと入って来て癒してくれます。

本当に素晴らしい事だと思います。

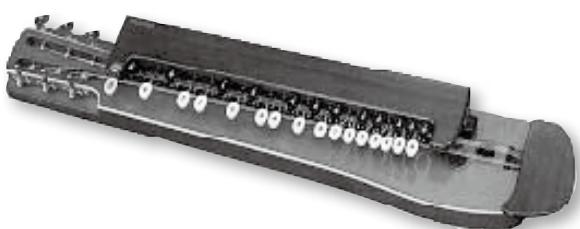
ふりかえってみれば嬉しい時、悲しい時、淋しい時、いつも音楽がそばにいてくれました。

視覚障害の人達は耳で聴きます。

聴覚障害の人達は壁際に座ると壁の振動、床のうねりでフォルテ、ピアニッシモがわかるといいます。

この様な事柄を聞くと大正琴を続けていてよかったです。やめていたら音楽全般から離れていたでしょう。

現在私は仲間五・六名で時々特養ホームへ伺っております。九十才以上の人もおられますが寝ている様に見える人迄音が出ると大きく眼を開き大きな口をあけて唄つて下さったり、手足が不自由な人が目を輝かせて手足で拍子をとる様な仕草をしたりしているのを見ると「音楽」の力とはなんと素晴らしいのか想像もつきません。あと何年続けられるかわりませんが、「いつも心に音楽を」と生きて行きたいと思います。こんな私ですが 仲間も一人欠け、大正琴のグループとして出演する事が不可能になると思われますが、末永く「音楽を愛する仲間」の一人としてよろしくお願い申し上げます。



演奏会報告

オープニング コンサートを終えて

市原シニアアンサンブル
代表 多見谷 正子

1月25日(火)、市原市民会館小ホールにて市原SE「こすもす」の発足記念演奏会を開催しました。年明け間もないことで、昨年末からは練習や準備に追われる毎日で、暮も正月もなくこの日に向けてやってまいりました。本番の前日も全員集まっての練習でしたが、この時でもまだ不安要素があり、もう致し方ないので「こすもす」は本番に強いからというおまじない?を言ってその日を迎えることになりました。

いよいよ本番当日。9時集合で「こすもす」団員とスタッフの方々が一同に会し、ミーティング後それぞれの持ち場に向かいました。

リハーサルは「こすもす」が最初で、2番目は「いちはら童謡を歌う会」、この会には今回の企画で初めて賛助をお願いしました。我が顧問兼プロデューサーの萩原さんが市原市で活動しているコーラスの団体をネットで見つけてくれたのがきっかけでした。

3番目は姉妹団体で一つ先輩格の「市川シニアアンサンブル」で、遠距離を来てもらうという事情があり、リハも出来るだけ遅めの時間で調整していただきました。

ステージマネージャーを引き受けてくれた浜田さん(こすもす団友)の指示の下でリハも無事終え、あとはどのくらいお客様が来てくれるのかなどという心配を残すのみになりました。

とうとう開場の時間が来ました。この段階での代表としての役割は「来賓の方々をお出迎えし挨拶すること」となっているので、受付に行ったら、千葉SEの懐かしい面々が準備にとりかかっていて、シニアの仲間というのはこういう時に協力してもらえるんだと強く実感した次第です。他のスタッフの皆さんもどこかのシニアアンサンブルに所属している方たちですから同じ思いで協力してくださっていることでしょう。こういう意味でもシニアアンサンブル連盟という仕組みはとても有り難く仲間意識の絆が結ばれやすいとあらためて思いました。

さてわたしの仕事は来賓のお出迎え。受付嬢に尋ねるともうすでに席へ行かれたとのことだったので、すぐに席へ向かってご挨拶しようと急ぎました。ほどなく探し当ててお会いすることができました。全日本シニアアンサンブル連盟の芹澤理事長さんと事務局の小林さんがはるばる調布から駆け付けてくださいました。芹澤さんには「こすもす」との関わりあいで市原に昨年の4月以来3回もお越しいただいており、熱心なご指導にとても感謝しております。お二方を前にして、演奏はもちろん、諸々全般にわたるまで身の引き締まる思いがいたしました。

この時の会場の見た目はある程度埋まっていて、少なくとも寂しくて困るという危惧からは脱け出していましたので、あとは演奏で力を尽くすだけということで着実に企画の進行がなされていることに安堵いたしました。

いよいよ開演です。第1部は市川シニアアンサンブルの「一晩中踊れたら」で開幕にふさわしい曲目



演奏会報告

で始まりました。いつ聞いても華やかな曲です。続いてクラシック、ポピュラー、タンゴとどんどんと聞き応えのある曲を演奏して、ラストは「ラ・カンパルシータ」を迫力ある演奏で大いに盛り上げていただきました。

第2部は「いちはら童謡を歌う会」の女性40人のところに白一点の男性が入った懐かしい童謡の数々。歌ばかりでなく思わぬ変装にも驚かされたり振付もありで、とても楽しいステージでした。

第3部が我が「こすもす」の登場です。みんなに親しまれたクラシックということで「花のワルツ」「スラヴ舞曲第10番」と続けました。技術的に難しい曲を始めに演奏しました。大野先生の見事な編曲に限りなく近づいて、良い出来にしようという団員の気持ちを聴衆の皆さんぐみ取っていただけるかなという思いで頑張りました。この2曲を終えてからはとても気が楽になり、最後までこの調子で盛り上げていこうというノリで、普段の練習よりも気合いの入った良い合奏ができたかなと思います。ラストの「ヘイ・ジュード」は萩原さんと浜田さんの巧みな演出と出演者全員の熱唱で盛り上げていただきました。そして会場にいたすべての皆さんのおかげで、感動すら覚えた(後日のアンケート結果から得た声です)というステージを創りだすことが

出来ました。こんなにうまくいくとは思いませんでした。アマチュアでも出来るものなんですね。予想以上のことでした。

コンサートは無事終了し、続いて行われた同じ会場のレストランでの打ち上げも多くの方にご参加いただきました。参加者全員に一言感想を述べてもらいました、私の不慣れな進行役にも関わらず皆さん大いにしゃべって、食べて、飲んでと意気盛んな様子だったので、本日のコンサートは十分満足なものだったと強く思つたことでした。

この原稿の締め切りが3月末ということで少しのんびり構えていたら、一週間前に起つた東日本大震災で続きを書く気持ちになれず、どうしたものかと思いましたが、通常の練習も市の公共施設を利用しているため取りやめになり、出かける用事もなく家にこもりがちな状況では書ける時に書くしかないと考えを改め、ようやく仕上げた次第です。

市原シニアのコンサートは済んだけれども、この先に予定されている他のシニアの演奏会のことを思うと、一日も早く安心できる日の来る事を願うばかりです。この先も好きな音楽活動を続けられますようにお祈りいたします。オープニングコンサートに関わっていただいた全ての皆様にご協力のお礼を言いたいです。「ありがとうございました」

私は誰でしょう? (賞品のないクイズ)

かつて、NHKのラジオかテレビでこのタイトルの人気番組がありましたね。さて、この写真で、うら若き女性の左隣の男性は誰でしょう?



正解

調布・杉並両SEの指揮者、指導者 福田信一先生です。先生は、昭和25年にN響に入団され、ヴァイオリニ奏者として30年活躍されました。この写真は、昭和35年にN響が日本のオーケストラ史上初めての大事業「世界一周演奏旅行」に出掛けた時の一枚です。右の女性はピアニストの中村紘子さん。当時16歳。この前年、第28回の音楽コンクール(当時は毎日音楽コンクールと称していました)に史上最年少の15歳で第1位 特賞に輝き、N響の世界一周演奏旅行にチエロの堤 剛さん(当時18歳)と共にソリストとして抜擢されました。

ハードスケジュールの演奏旅行、それも西洋音楽の本場での公演で緊張の連続だったそうです。がそれでも忙中閑あり、名所・旧跡を訪れてホッと一息つかれた時の写真です。当時35歳の福田先生、若々しく澁刺とされていて惚れ惚れします。現在85歳となられましたが、指揮台に立たれますと矍鑠として私達を指導・指揮して下さいます。

先生、これからも健康に留意されまして、私共のご指導を宜しくお願いいたします。

写真は、ローマのコロシウム遺跡にて、左から福田先生、ピアニストの中村紘子さん・N響のメンバーの皆さんと。

演奏会報告

創立20周年記念演奏会を開催しました！

**足立シニア アンサンブル
副会長 伊藤 秀治**

日取りは平成23年5月28日土曜日、足立区花畠公園桜花亭にこれまでの定期演奏会にアンケートでお名前をいただいたお客様をメインに近隣のお客様も交えて約150人が来場。狭い会場を埋め尽くしました。

開催目的として、創立20周年を記念して日頃から足立シニア アンサンブルを支え、援助し温かく見守ってくださる団員の家族やファンの皆様をお呼びして、ささやかな演奏会を催し感謝の意を表す。さらに、今回の未曾有の東日本大震災罹災者支援の一環として募金活動を行いました。

尚、連盟本部から芹澤理事長がお越し下さり、開演に先立ち、ご懇篤なご挨拶をいただきました。

一同身の引き締まる思いで拝聴し、今後の活動の糧といたします。

演奏曲目はクラシックを2曲、映画音楽2曲、歌謡曲2曲、タンゴ3曲のほかアメイジング グレイスやコンドルは飛んで行く、ザ・ビートルズ メドレーを1部2部に分けて演奏また瀬戸の花嫁、花(滝廉太郎作曲)、ふるさとの3曲を会場一杯のお客様と

合同演奏曲として声高らかに歌っていただき、アンコール曲ではラ クンパルシータを快調なテンポで締めくくり和やかに午後のひと時を過ごしました。

当日は朝からあいにくの雨天で、来場者の出足が気になっていましたが団員の勧誘努力や知人、家族の来場もあり、ほぼ満員のお客様を迎えて熱のこもった演奏ができました。

終了後の打ち上げでは、当日までの大地震と原子力発電所事故による節電対策に振り回され会場が使えない恐れや練習会場が使用禁止に晒され、練習場所を求めて糸余曲折、練習再開の朝、メンバーと再会を喜び合ったあの日のことなどや地方選挙の投票日で2回も練習できないなどの難関をのりこえた演奏会で、苦しかった時の思い出を語り合うことで、大きな安堵と達成感を団員一同共有でき、宴ではフラダンスを踊る人や愉快な替え歌に興じたり皆で今や足立シニアの十八番となった東京音頭を踊って大いに盛り上がって締めくくりました。

これまでに団の創設から育成に力を尽くしてくださいました村上忍前会長・後を引き継いだ高橋昭五会長、今回の演奏に時間の無い中を熱心にご指導くださいました笹森敏明先生にこの紙面をお借りして深く感謝の意を捧げたいと思います。



演奏会報告

創立 10 周年記念コンサートを開催

**我孫子シニアアンサンブル
代表 牧野 直彦**

我孫子シニアアンサンブルは平成13年8月、千葉県で初めてのシニアアンサンブルとして発足し、団員24名、約100曲のレパートリーを保有するまでに成長しました。

これも10年間に亘り、設立から団の育成に、代表として心血を注いでこられた岡村斉能前代表や先輩の方々のご尽力の賜です。

創立10周年の節目を迎えるに当たり、平成23年3月10日(木)午後「記念コンサート」を、JR常磐線我孫子駅前の「けやきプラザ ふれあいホール」で開催しました。

昨年10月から、「記念コンサート実行委員会」を発足させ、全員参加で準備を進めてきました。当初計画では、3月12日(土)の予定でしたが、運よく会場確保の抽選でハズれ、やむを得ず、その2日前の3月10日(木)に変更しました。思い起こせば3月11日(金)に、あの東日本大震災に見舞われましたので、当初予定の日にアタリをひいておれば、中止となるところでした。

「記念コンサート」は、笹森敏明先生の指揮の下に、第1部はクラシックとして“アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク第1楽章”“ペルシャの市場にて”“南国のバラ”など5曲を、第2部前半は日本の名曲として“いい日旅立ち”“ひばりメドレー”など8

曲、後半は世界の名曲として“夜のタンゴ”“ラ・クンパルシータ”“ベサメムーチョ”など6曲、アンコールとして1曲

“一晩中踊れたら”を助川恵子団員のボーカル付きで、合計20曲を演奏しました。

今回は過去10年の集大成の意味合いがあり、これまでに演奏してきた曲の中から比較的評判の良かった曲を中心に選曲をしたので、ご来場の皆さんからも高い評価を頂くことができました。

当日は、全日本シニアアンサンブル連盟の芹澤昭仁理事長はじめ、千葉県内の千葉、船橋、市川、四街道、あすなろの各楽団から、お手伝いや応援に多数のご来場を賜り、お陰様にて平日にも拘らず、550席は満席となりました。お手伝いや応援にご来場の皆様方には、改めて厚く御礼申し上げます。日頃から演奏に伺っている市内の「ふれあいサロン」の皆様方も大勢かけつけて下さったのも、今後の励みになりました。

ご来場者のアンケートの結果をみると、

- ①素晴らしい
- ②上手だった
- ③楽しかった
- ④聴衆参加の企画や選曲がよかったです
- ⑤指揮者がよかったです

などなど圧倒的にお褒めの言葉が多く、団員一同、大いに意を強くすると共に、更なる向上をめざす決意を新たにしました。



演奏会報告

第7回定期演奏会を終えて

**アンサンブル ポニーかつしか
代表 上原 成介**

4月30日、新しい指揮者（編曲者）である五十嵐淳先生をお迎えしてから初めての定期演奏会を開きました。

今回から会場を「かつしかシンフォニーヒルズ」の小ホールに移しましたので定員が300名と少なく、前回、前々回には500名を越える来場者があつたことを考えますと当然入り切れないことが予想されました。

そこで、今回は一切宣伝しない、団員の友人・知人・隣人・家族中心のファミリーコンサートを計画しました。そして今回も設立以来23年の伝統で入場料は取らないことにしました。（但し、大震災の募金は集め、全額葛飾区を通じ日本赤十字社等に送りました。）

また、ゲストは呼ばない。エキストラも頼まない。司会も自分達でやる。曲の解説は五十嵐先生にお願いし極力費用をかけないことを徹底しました。

当日は、立ち聴きの方が出ないことを目標にし、結果は会場係のお手伝いの方7名は立ちましたが

他の方々は座われ満席でした。

演奏会の内容は、五十嵐先生の音楽指導経験豊富なユーモアのあるお話で会場には爆笑が渦まき、あつという間に終演予定時間を30分以上も超過しました。

会場でのアンケートは、演奏はもとより先生の音楽に造詣の深い解説が大好評で楽しさを満喫した様子でした。

最近の音楽ファンはテレビの影響もあるのか、曲をただ並べ次々と演奏を聴くのは好まない。曲を聴くポイント、その曲の背景、音の組み合わせ、アンサンブルの成り立ち等トークを交えての演奏会が大変喜ばれるような気がします。

問題はそれが出来る、音楽全般に亘る広範な知識・経験を持ち、且つユーモアあるトークが出来る方がいるか？という点です。幸い当楽団にはその才能が十二分にある方（失礼）がおりますので私どもは大変幸せと考えています。

今後とも音楽を通じ地元の方々に奉仕するというボランティア精神と、楽器初心者でも気軽に入団でき、且つ生き甲斐を見つける樂団を目指して楽しくやって行きたいと考えています。



新規加盟楽団紹介

連盟新規加盟に寄せて

四街道シニア・アンサンブル 代表 佐々木 信一

この度、全日本シニアアンサンブル連盟に新しくメンバーに加えて頂いた「四街道シニア・アンサンブル」です。昨年秋にスタートした新しいアンサンブルですが、これから皆さん方のご援助を頂き、内容を充実させ、レベルの向上を目指しながらも且つ、楽しい集団として発展したいと思っております。

また、それが微力ながらでも連盟の発展に繋がるものと考えます。どうぞ宜しくお願い致します。

◎結成のころ

当アンサンブル(以下、当団という)の最初の集まりは平成 22 年 10 月 7 日でした。

結局この日が結団の日となり、各自自己紹介のあと、早速第 1 回の練習に入りました。

結成の経緯については、シニアアンサンブル千葉県連盟(以下、県連という)の方で、「千葉県印旛地区のどこかにアンサンブルを作りたい」との発想から、県連理事長岡村齊能氏、同副理事長萩原充行

氏が中心となって奔走されました。そこで四街道市議広瀬義積氏との紹介から「当地(四街道市)にオーケストラがあり、そこから発信してみては」となり、当団の人選・組織・練習場所等が固まり、結成となったわけです。尤も、最初の打ち合わせはそれ以前の 5 月中頃から始まっています。

指導者には、成島弘氏、代表には私、佐々木信一が就任することになりました。成島弘氏は 27 年前に創設された「四街道交響楽団」の団長兼常任指揮者、私佐々木は同交響楽団の事務局長でもあったことから、比較的スムーズに話が進みました。また、コンサートマスターは岡村齊能氏、顧問に萩原充行氏、広瀬義積氏が就任し、当団の骨格ができました。

このような経緯を経て、平成 22 年 10 月 7 日の結成日を迎え、集まったのは 17 名。四街道市内と市外の人達が約半数ずつでした。四街道市は隣接する千葉市に近いこと也有って、比較的練習参加が容易であったことが幸いしています。シニアとはいって、集まったメンバーはみんな若々しく、新しくできる楽団に期待を寄せているのがみてとれました。

事実、音楽をやっている人達は何時までも若いなあと実感しました。



新規加盟楽団紹介

◎現在の状況

こうして誕生した当団でしたが、その後、草創期特有のメンバーの増減があり、現在は23名の編成となり、やっとメンバーが落ち着いてきた感じです。

練習場所は前掲の広瀬市議の斡旋もあり、「市福祉センター」を本拠地として練習が始まりました。

凡そ市内の公共施設の利用方法は前年度末に向こう一ヵ年分が決まります。従って当団のように、年度途中に結成して、施設利用を申し込むには既に他の団体の利用が決まっていて、なかなか困難なケースでしたが、何とかモグリ込んだ?といったところでしょうか。

その後、平成23年度入りして、市立公民館をも練習場にすることを視野に入れ、年度初めからテスト的に実行しています。ただ、練習場を二つに分けますと、利用の曜日が異なり、やや不便な感じがします。反面、新規に申し込んだ公民館は、駐車場・施設の広さ・設備・部屋(小ホール)の音響などがすぐれしており、将来はどうちらかに統一できれば良いなあと考えています。

◎これからの課題

1. メンバーも固まってきたところでこれからの課題も沢山あります。まず、当面の目標としては、早い機会に全員がステージの経験を持つことと考えています。さしつけ来る10月に開催される「全日本」のコンサートをこなすことです。その後は、言わずもがな、当団独自の第1回コンサートを持つことです。具体的にはまだ協議しているが年内か、或いは来春前後かなと考えています。幸い、指導者も代表者も地元のオーケストラ活動で、凡そ30年近く培った経験を生かせるのではないかと思っています。

2. 次にこれもメンバーが固まり、お互いの理解も深まってきたところで、団内の組織化を図り、団活動を効率よく推進できる体制を固めたいと思っています。また、お互いの親睦を深める為、

楽器合奏ばかりでなく、あらゆる分野(一寸オーバーかナ)での催し、例えば、茶話会、軽い遠足、観劇などなど……を、組織化した中で採り上げて生きたいと思います。アンサンブルを中心にして色々な体験をしたいものです。

3. 三つ目は、更にメンバーを増やすことです。私どもは市内の方でも市外の方でも一向に構わなく、私どもの趣旨を理解し、賛同して下さればそれで充分です。幸い、県都千葉駅から電車で僅か10分の近さで四街道駅に達します。この地の利を充分生かしたいと思います。ただ、市の施設を使う場合、「団体の構成員の6割以上は市民であること」という決まりもあり地元の市民の発掘も必要です。まず第一歩の目標は30名。それから40名、50名と希望は大きく持ちたいと思います。
4. そしてこれは先の話ですが、シニアとオーケストラ双方の経験を生かして、両者の交流が出来ればいいかなあと考えています。先述したように、当団の指導者も代表者もオーケストラの団員を兼ねています。シニアとオーケストラでは楽器の構成も当然違っていますが、共通するものも多く、人数が増えた時点で検討に値するテーマだと思っています。人の交流、曲目の交流、お互いのコンサートでの交流等々考えるだけでも楽しい夢が湧いてきます。近い将来でも遠い将来でもいいから、いつかは実現したいと願っています。

以上のように、連盟の中ではまだ、赤ちゃんとも言える存在ですが、これから頑張りたいと思います。練習日には、メンバーがぞくぞくと集まります。シニアの名を返上したくなるほどの熱気が感じられます。みんな活き活きしています。

それぞれの年齢に相応しい健康管理をしながら、長く長くシニア・アンサンブルの活動が続くことを願って止みません。

新規加盟楽団紹介

シニアアンサンブル あすなろ

代表 北田 春夫

1 団員の構成 (平成 23 年 6 月 1 日現在)

音楽指導者 1 名、ピアノ 1 名、バイオリン 4 名、マンドリン 3 名、ギター 1 名、フルート 1 名、キーボード 4 名の計 15 名

2 活動状況

練習日 每月第 2、第 4 金曜日午後 2 時～4 時
地域活動 我孫子市内の老人ホームや地域主催の集いに出張演奏を年 4～5 回実施

3 「あすなろ」発足の経緯

当楽団と姉妹関係にある「我孫子シニアアンサンブル」は、平成 13 年 8 月に発足しました。同楽団はその後、年輪を重ねる毎に徐々に演奏レベルも向上し、楽しい楽団に成長しましたが、反面悩みとして、新しい入団者が先細りとなって来ました。

市の広報による募集などで見学に来る人はいますが、皆そのまま入団する方は少なく、「もう少し練習してから入団したい」と言う方が殆どでした。

そこで、その敷居をもっと低くして、入り易い楽団を別個に設立しようということになりました。

平成 19 年 6 月に市の広報で「シニアアンサンブル入門コース」と銘打って募集し、素人、初心者、昔習った方々が入団して結成したのが「あすなろ」の前身です。

月 2 回(第 2、第 4 金曜日の午後)市の近隣センターや市民センターに集って、本当に初步的な曲から練習を開始しました。

又、正規の指導者では、少し団員が堅くなるかも知れないので、我孫子 SE の代表(当時)岡村氏が、指導代行として始まりました。

練習時間は 2 時間程度ですが、中休みを 30 分程度取り、お茶・お菓子とお喋りの時間にしています。

このように当初の目標は、地域の合奏好きの方に 1 人でも多く、シニアのアンサンブルの仲間になって頂き、徐々に慣れた段階で、我孫子 SE に転進



して頂くということでした。

実際には、「入門コース」卒業後も「我孫子 SE」と「入門コース」の 2 つの楽団に在籍している方が、約半数います。

その後、平成 22 年より、出張演奏をする機会が多くなり、「入門コース」という呼称では、受け入れて頂くお客様のためにも良くないということで、現在の“シニアアンサンブル「あすなろ」”に楽団名を変え、れっきとした楽団として昨年 6 月より、新たにスタートしました。

4 現在の状況

広報による団員の募集を行っていますが、現状応募が少ないので問題です。楽団として成長するためにも、団員の確保が課題です。

これから目標としては、演奏レベルを向上し、「我孫子 SE」から独立して更なる成長を目指すことです。

(岡村・北田記)

平成23年度 賛助会員(敬称略)

23年5月末現在

【個人】 1口 5,000円

村上 忍 (1口)	堤 通能 (1口)	(有)星ハウジング (2口)
芹澤 昭仁 (2口)	尼子 和世 (1口)	
山村 秀夫 (1口)	草 政一 (1口)	
島田 博一 (1口)	小林 忠雄 (1口)	

【団体】 1口 10,000円

編集後記

ひびきあい第50号の編集を終えて、時代の激変を実感しています。

“図書・書籍の電子化”という言葉が言われ始めて、自分には関係ないと高をくくっていた連盟事務局の私達がその変革の洗礼を受けることとなりました。

5月の総会で“ひびきあい”を連盟ホームページ上に載せることが議決され、その第1号です。

皆様お手元のパソコンで、ご自由な時間にご覧いただき、ご感想・ご意見等をお寄せ下さい。

この電子化作業に強力な助っ人が杉並シニアの五嶋教夫さんです。コンピュータ技能に長け、趣味は手作りヴァイオリンで分数ヴァイオリンからチェロまで作って、練習には自身手作りの愛用ヴァイオリンで参加されるという御仁。

事務局のど素人を優しく、ときに厳しくご指導くださいり感謝申し上げます。

さて、我孫子シニアアンサンブルさんの定期演奏会が3月10日に開催され、ご来場の多数の方々にシニアの元気な演奏を堪能して頂いた翌日発生した東日本大震災!!

未曾有の人的・物的損害をもたらし、収束の道筋も見えないところで、定期演奏会中止を余儀なくされた楽団があります。環境が整い次第開催の予定と伺っています。

また、被災された方々と心はひとつとして、演奏会を開催し犠牲者のご冥福をお祈りし、被災された方々の早期の復興を願って元気を取り戻して頂き、併せて義捐金を呼びかける等々、音楽を通じて出来ることをやって下さった皆様。

ほんとうにありがとうございました。

(小林 記)